

## 2 松本大学短期大学部特別講演会

松商短大 GP フォーラム

### 「社会に出るまでに身につけておきたい『学力』とは」

【日時・場所】平成23年3月19日(土) 松本大学第1体育館

【講師】教育評論家 尾木 直樹 氏

【経歴】昭和22年滋賀県生まれ。早稲田大学卒業後、私立海城高校また東京都立中学校の教師として22年間、子どもを主役としたユニークで創造的な教育実践を展開。  
現在は、法政大学キャリアデザイン学部教授、早稲田大学大学院教育学研究科客員教授。臨床教育研究所「虹」主宰。

こんにちは。今ご紹介にあずかりました教育評論家の尾木直樹です。どうも少し落ち着かないのです。今日は、松本大学の GP フォーラムの基調講演という、大事な場面での講演で、しかも大学での講演ですから堅いことを考えてきました。そうしたら、あちこちで会う人がこう手を振るから、「あれっ、ひょっとしたら僕のことを尾木ママと思っているのかな」と、激しく動揺しているわけです。「そしたら講演にならない」と思ったりして（笑）。

ちょっと手を挙げていただきたいのですが、こちらの大学の関係者の方はどれぐらいおられますか。大学の関係者、学生さん、保護者の方、どれぐらいおられますか。ああ、そうですか、はい。では、一般市民の方。普通の人というか、手を挙げてください。手挙がりましたね。挙がらなかった人は、なんだろう。なんだかよくわからない。

今まで、全国の2,500～2,600カ所を講演で歩いているのですが、長野県の方というのはすごい特徴ありますね。僕は日本のスイスと思っています。気候風土がよくて、人柄がよくて、それで、ものすごくモラルが高い。規制をもとに教育を考えるのではなく、色々と議論したり考え合ったりして、そして地域の文化力や教育力を高めていく。よく教育県と言われますね。教育県というと、なにか堅い感じがあるのですが、市民が下から創り上げているのです、ここは。自称教育県は他にまだ2つ、3つあります。その中で、長野県は本物。僕は尊敬しているし、最後の日本の砦だと思っています。「良識の砦」。そこに住んでいるのですよ、皆さんは。

本当に長野に来ると、空気が違います。オリンピックありましたよね、冬季オリンピック。あれから長野県は急速に開放的になり、グイグイ進み始めましたね。それまで結構、意固地だった。我が強くて、こうピュッと閉じた感じだったのが、オリンピックを契機に広がった感じです、学校現場も市民の方たちも。変わらないのが、やっぱり学習意欲が高いということですね。今日だって見てくださいよ、メモを取っている人がいます。こんな光景は日本で長野県だけ。本当にそうです。例えば、お母さん向けの講演に僕はよく行きます。今までに僕の講演を聴いてくださった方、ちょっと手を挙げてください。わっ、少ない。12人しかいない。ありがとう。

子育て講演っていうのは、普通、女性が多いものです。99%くらい女性ですね。ところが、長野県はどんな会場へ行っても大体20%は男性がいます。これは大きな特徴です。今日も男性が結構多いですね。まあ、今日が休みだっていうことでもあります、男性が多いですね。質疑応答をやると、長野県は大変。手挙げて本当に本気になって質問します。あれは一応ね、挨拶みたいに儀礼的に行っているだけです。それが、真正面から手が挙がる、それも男性が多いんですよ。これは、日本では長野県だけの傾向です。

そういう長野県に来て、今日は真面目に普通に教育の話をストレートに、文科省のこの GP に恥じないように、松本大学さんに迷惑かけないようにしゃべれると思って喜んでいました、実は。そうしたら、みんな手振るもんだから「あれ?」、ここでもやっぱり尾木ママなのかなと思ったら、最後の砦がつぶれたという感じがして、すごいショックを受けていましたが、もう大丈夫、落ち着きました。

それでは、ちょっと皆さんのお子さんの年齢をざっくり聞いて、そして、「社会に出る前につけておきたい学力」というテーマで、大学生だけではなくてね、高校生や中学生、それから乳幼児の子どもたちも含めて、一体、社会に出て行く力とか、今求められている力というのは何だろうということ、ざっくりと話します。約4時間かかる話を60分でやるというわけです。精一杯頑張るということが大事、だから精一杯頑張りますけれども、やはりざっくりした話になります。

皆さんのお子さんがもう20歳以上の方は、どれぐらいおられますか。あ、結構おられますね。29.8%ですね、はい。それじゃ今度は、高校生をお持ちの方はどれぐらいおられますか。これぐらいですか。そうしたら、逆に聞きます。松本大学でなくても、松本大学も含めて大学生や短大生や専門学校に行っているお子さんをお持ちの方は、どれぐらいいますか。ああ、結構おられますね。はい、わかりました、16.8%。それじゃあ、中学生を持っている方は。中学生はえらい少ないですね。小学生の方は、小学生をお持ちの方。何回手を挙げて構いません。小学生の方、わかりました。そしたらあとは、小学校に行かない保育園とか幼稚園の小さなお子さん持っている方、どれぐらいいますか。はい、わかりました。



今年の1月に成人式で話題になったことがあります。何かというと、日本の今年20歳になった人のうちで、今現在、異性とお付き合いしていないって答えた男子が84%。女性のほうは7割ちょっとですけれども、男性は何と84%。なんか安心した表情の人が見えましたけど、友達が多いとか。それから、今までにお付き合いしたことがないという人が49.8%位、約50%。それから、生まれてこの方20年、女の人を好きになったことがない、こういう方が男性の17%、こういう状況なのです。今。生まれてから一度も女性を好きになったことがないというのは、これはいかがなものかと思いませんか。草食系男子という言葉が一時期流行語になりました。これは、ほとんど草食ではないですね。草食というのは、まだ動物です。こうなると、もう植物です。植物男子。いけないことじゃないですが……。

僕も振り返ってみたら、中学生、高校生のころの趣味はいろいろでした。何をしていたかというと、盆栽をしていたり、サボテンを集めたり。サボテンは100種類ぐらい持っています。過去を振り返る番組の取材のために、古いアルバムを見ていた時、その写真が出てきた。これはさすがに、取材の人に見せません。今日入っているカメラは『情熱大陸』という番組のもので、そのカメラマンにも見せない。元祖植物じゃないと思われると、超恥ずかしい。でも子どもいます、2人も。奥さんも1人いる。これがいい人。すぐ、マスコミが取材させてくれと言いますが、隠しておきます。

さて、この植物化には背景があります。いつ頃から急激に増えてきたかという話になると、マイクを通しては、ちょっと言えないような重大な事態が進行しています。急激なのは、この10年間ぐらいです。教育の現場の影響でもない、家庭の影響でもない、違う要素が入ってきたのではないかなということが、今、言われます。男性の問題で言えば、本当にこれは危機的な状況に今進んでいます。女性のほうが比較的ましです。生物学的に詳しい方がいたら、ヒントでわかってきたと思いますけれども。本当に日本にとって危機的な現象が今出てきたなと思います。



それだけではないですね。昨年の10月ぐらいだったと思いますが、全国高校長会というのがありました。県立と公立高校の校長先生の団体です。大体、日本全国に今5,000ぐらいの県立と公立の高校があります。その約2,800校でアンケートをされて、その集計結果が全国高校長会の集まりの中で発表されました。まだマスコミ発表する前の段階で。それを聞いて、びっくりしました。全国の高校の校長先生方が商業科や工業科や普通科の今の高校生を見ていて、「一番子どもたちにつけなきゃいけない力」はどのような力と感じているかです。今日のテーマ「社会に出るまでに身につけておきたい学力」は、大学生のものだけではありません。高校生も同じように社会に出る人が半分はいるわけです。だから、ほとんど重なってくるテーマだと思います。皆さん、何だと思われますか。

今、学力低下というのが随分と言われています。だから、やっぱり「基礎的な学力をつけること」だと思うのではないですか。この中に先生がおられたら、まず8割が「学力保障」と言ったのではないかと思われるでしょう。ところが、その全国高校長会でトップを占めた回答は87%、約90%で、「コミュニケーション・スキル」でした。人とやりとりして、会話をしていく能力、自己をきちんとプレゼンする能力ですね。僕たち教育関係者から言うと、当然だと思っている学力については、どれぐらいかという、40数%です。学力をつけていなければいけないというのは4割台です。つまり、コミュニケーション・スキルが必要だって言う人の半分しか「学力保障」という人はいないのです。一方では、「学力が必要だ」とこれだけ言われているので、この4月から義務教育課程の特に小学校からまず「脱ゆとり」教育っていうのが始まるのです。

もともとは、「詰め込み教育」が失敗したというので、今度「ゆとり教育」で行こうと言ったわけです。それで、今度は「脱ゆとり」です。「脱ゆとり」をしてどこへ行くのか。何のことはない、「詰め込み」から「ゆとり」へ行って失敗したわけでしょう。また「詰め込み」に行ったらおかしいですね。失敗したところへ戻れません。それで、頭のいい人が、言葉を考え、「脱ゆとり」としました。何のことはない、くると回って「詰め込み」に戻るだけです。多少違うので言えば、レベルをちょっとアップしようとして小学校5、6年生から「外国語活動」というものが始まることです。

少し面倒なので、妥協して外国語が始まる、英語が始まるとマスコミでは話しているのですが、違います、本当は「外国語活動」です。勉強ではなく、英語でもない。しかし、それをあまり最初に言ったら、身も蓋もなくなって次へ進まないでしょう。だから、一応、僕も英語と言っていますが、フリップで説明する時は「外国語活動」としています。ちゃんと見ていますか。尾木ママというのは結構きめ細かいですよ。キャッチな言い方と中身をそうやってきちっと正確に押さえている。

大事なのは何かというと、外国語に「活動」がつくことです。皆さん、英語・数学・理科・社会とかと言いますね。「活動」とつくものは何がありますか。学級活動がありますね。ある意味で同じ「英語活動」なのです。学級活動だと思ってください。学級活動を英語でひとつやるだけです。つまり、本気で英語力をつけようなんてことは、初めから思っていないということ。わかりますか。すごく重要なことは、小学校の先生で英語の免許を持っている人は、たった5%しかいないということです。これでは、英語はやれるわけがないと思いませんか。もともと英語を教えようと思って小学校の先生になった人は1人もいない。はっきり言って、えらい迷惑ですよ、先生にとっては。約束違反だよ。私はバイクしか乗らないと思ってバイクの免許を取ったのに、次に車を運転しろと言われたのと同じです。あるいは、トラクターを運転しなさいって言われたのと同じ。そうなると、教員免許法に触れてくるので、「活動」とごまかしているのです、文科省は。だまされないでください。文科省もだましますからね。今日のGPはだましてないですよ、これは松本大学ですから大丈夫。地元の大学を信頼してね。本当に、いい感じですよ。さっき学生さんが、「一日限りのレス

トラン」で調理した食事を感謝の気持ちでいただきました。すごくおいしかったですね。



実は、子どもたちが随分変わってきて、コミュニケーション能力のほうが学力よりも重要との指摘されているのが事実です。現場の校長が言っているのです。現場の責任ある校長先生が、学力の倍、コミュニケーション能力がないって言っているわけです。だから、コミュニケーション能力がなかったら、男同士のお友達だって作りにくい。ましてや、異性を好きになったり、うまくお付き合いしたり、ゲットすることはできないわけですよ。そうしたら、異性と今つきあっている人がいないのは当然で、84%という数字は、すごくわかりますね。半分も好きになったことがないなんて答えるのもわかる。これは大変ですよ。少子化どころの騒ぎではない。日本人滅亡の危機という感じです。

こういう状況が、どのような現象として現れてきたかについてお話ししましょう。僕は法政大学の教員です。テレビでは、堅いイメージができるとうけないので、あまり大学の教授というのは言わないようにしています。だから、教育評論家とか、この頃は「尾木ママ」と言われるほうが多くなったのですね。

法政大学で教えていて、一昨年びっくりしたことがありました。法政大学のお手洗いで、どうもごはんを食べている学生がいるみたいだというわけですよ。「便所飯」と言いますが。そのころはまだ、「都市伝説」と言われ、「そんな子はいないよ」というような噂がネットでは蔓延して程度でした。トイレでごはん食べている大学生がいるというのは、それはまだ「都市伝説」だと言われていたのです。

昨年、500人ぐらいの授業を担当したのですが、2人の女子学生が、「法政大学の男子トイレに、『ここでお弁当食べるべからず 法政大学当局』と書いた貼紙がしてありますが、本当ですか。」という質問がきました。講義の中身とは関係ないわけですが、何を質問してもいいコーナーを作っている。毎授業で出席を取りますが、僕の出席カードは大きくてA4サイズです。そこに今日の授業の感想とか何でも相談コーナーという箇所を作っている。そこに書いてきたわけです。パッと見た途端、ふざけているぐらいにしか思わなくて、何言っているのだろうと思い、次の週に、「そんな所で食べているわけないよ」と言って、結構明るくパアッと通り過ぎたわけ。そうしたら次の授業の時に、また同じ学生が書いてきました。自慢じゃないですけど全部読みます。500枚全部読むだけで大変ですよ、1人1人の学生が書いて提出している出席カードを。学生たちは知らないと思います。密かにやっているから。ずっと見ているから、学生の気持ちや色々な変化がわかります。

僕の専門は臨床教育学ですが、現場で起きていることをきちっとつかんで、そしてその原因をまた把握する。そして、どうすればいいかという処方箋まで出していくのが仕事です。町の内科のお医者さんと同じで、風邪を引いたとしたら、その原因を調べ、薬を出して治す責任がある。

さて、僕はその学生に対して、「1人で食べればいいのだから、トイレで食べているなんてことはあり得ない」と言いました。そうしたら、今度は「尾木先生は軽く言ったけれども、学生食堂に入って1人でごはんを食べるなんて考えられないです。」と書いてきました。それは僕にとって、ものすごいショックでした。信じられなかったのですが、学生何人かが書いているのです。これはいかんと思って、僕は本腰を入れてそれと付き合い始めました。

今日、こちらの大学の学生になる予定の方も含めて松本大学の学生さん、どれぐらいおられますか。ちょっと手を挙げてください。ああ、おられる、おられる。そうしたら次に、今僕が言っているのは、法政大学の学生が、「学生食堂に1人で入って行って、1人でごはん食べるなんてこと、考えられない。」と言っている気持ちがわかるわという人、手を挙げてください。その気持ちわか



るわ、自分はしないかわかんないけれども、その気持ちわかるっていう人。あれ、手を挙げてって言ったよ。僕にさっき手を振った時、かなり大胆に振ったよ。それぐらい振ってみて。学生の気持ちわかるよっていう方、意外と少ない。でも手は挙げていますね。両手振っている人もいる。そうしたら逆に聞きます。1人で学生食堂に入って、ごはんを食べるっていう気持ちがわからない、私は全然その人の気持ちわからないっていう人、逆にどれぐらいいますか。わからないっていう人。わからないっていう人は、今見たところでは本当に少人数しかおられませんね。わかるっていう人のほうが多いような気がします。

他の大学で調査しますと、「わかるよ」という人が約6割、7割ぐらいいます。僕はすぐに法政大学でアンケート調査をしました。「ごはんをトイレで食べていますか」とは、聞きにくいでしょ。そこで、『大学生活実態調査』という名目つけて、「大学に何か要望したいことありますか」、「授業わかりますか」など27項目の質問の中に、これに関する質問を入れることにしました。今の子は答えるスピードが速く、後のほうでは間違えてしまう可能性があるので、作戦を考えて3番目の質問に、「トイレでごはん食べたことありますか」と入れました。普通であれば、重い質問は最後のほうに置くことがアンケートの常識ですが、それを逆にして、最初のほうに上げてみました。そうしたら、おりました。それがかなりの人数で、僕は衝撃を受けました。

これは法政大学だけではなく、他の大学でも同じじゃないかという予測がつかしました。他の20数項目を見てたら、「友達を作るのが苦手」というのがはっきり浮き彫りになってきた。この結果は、高校の校長先生が言うように、コミュニケーション・スキルがないということか。これがすごく欠けていることで、苦労している学生の姿が見えてきた。それで、すぐにW大学でも、同じアンケート調査をやりました。さらに、天下のT大学でもやりました。T大にもやっぱりトイレでごはん食べている学生がいました。T大の先生は「T大のトイレは汚いので、どこで食べているのかなあ」と言うのです。ちょうど同じ時に、ジャーナリストの方が僕と同じ問題意識を持って、大学キャンパスに入ってT大生をリサーチしていた。それによると、T大の図書館のトイレはきれいで、そこで食べている学生を捕まえたと言うわけです。そして、尾木先生の調査は当たっていると言うのです。ちなみに、法政はかなり人数が多かったんですよ。法政の名誉のために言っておきますが、法政大学のトイレきれいです。本当にね。そこでお友達と会食でもしたいほどきれい。他に比べると、法政きれいですから、法政に来てくださいよ。トイレはトイレですが。

W大学は文学部で調査したのですが、ここでもやっぱりいました。協力してくれた教授のところに電話をして、「やっぱり文学部もいますよ」と言ったら、びっくり仰天していました。W大の文学部のトイレは古くて、すごく汚くて臭うそうです。あそこで食べているというのは信じられないと言っていました。これから改築し、新しくするそうです。改築したら列ができるかなあと、その教授が言っています。教育学者が、本当に列ができるかも知れないと言っているわけです。

結構、全国の大学に講演に呼ばれることが多いので、その都度、副学長とか教務の先生方に聞いてみると、やっぱりどこでもいます。僕が今までリサーチした中で一番多い大学は、誤解されたいけないから大学名は言えませんが、北関東にある国立大学ですが、そこは本当に列ができています。前の子が終わるのを待っている。おトイレが終わるのではなく、ごはんを食べ終わるのを。自分の順番がくると、ボタンと入ってごはんを食べる。どうですか、松本大学の学生さん、そんな感じになっていないですか。どうですか、先生方、そういうのはこちらではないですか。それとも、知らないだけ。人がよさそうな先生方だから、知らないだけかもしれない。

臨床教育学の先頭を走っていると思っていた僕が、2年前、このことは知らなかった。知った時の衝撃は大変でした。そして、そんな話を高校の先生方にちょっと話したら、高校では全国的に7、8年前からもう起きていますと言います。すごく残念だったのは、大変な思いをして食べている高校生がいることをなぜ早く、僕に教えてくれなかったということ。「いやあ、先生、私たちも苦労しました。」と高校の先生が言います。どんな苦労されていたと思いますか。トイレでごはんを食べ

られると、色々と散らかって汚くなる。それが迷惑だからというので、お昼休みになる4時間目終了のチャイムが鳴り終わると、生活指導の先生がトイレへ駆けつけていって、便器の上にバアッと水をまくのです、座れないように。びっくりしました。私たちも大変でした、と言うのです。これはちょっと違うと思いませんか。



皆さんの長野県の高校の話ではないです。長野県は頑張っていますね。何を頑張っているのかわかりますか。長野県は全国で一番高校生の意見を聞いたり、高校生が学校運営に参加したりしています。例えば、辰野高校は有名じゃないですか。中学校も公立高校も子どもの意見を聞いたりして、生徒会活動のレベルが一段と高いですね。そういうことを知っていた方、長野県の教育現場は進んでいるということを知っている方、ちょっと手を挙げてください。かわいそう、長野県の先生方、苦労してやっているというのに。

文科省の方向とは逆行していますが、地域の伝統を大切に、これまでの実績に確信持ってやっていますね。僕も全面的に賛成です。長野は住みたい県のずっとトップクラスを走ってきました。長野県へ来て何とか村のほうへ行くと、皆さんすごく住みやすいと言いますね。健康についても、訪問サービスなど地域の医療制度が発達しています。

さて、引きこもりの調査を日本で最初にやったのは僕です。引きこもりの人の調査というのは、一番やれない。なぜかと言ったら、調査したいと思う人は引きこもっているからです。調査できるわけがないですよ。けれども、現場を歩いてみるとわかりますが、先生方は色々な苦労をされ、また、親御さんの苦労も大変なものです。そこで、何とかしないといかんというので、どうしたら輪郭だけでもつかめるのかと思って、ずっと悩み抜いている時に光が見えたのは、やっぱり長野県でした。長野は、地域医療、予防医学が進んでいます。昔で言うと保健婦さんたちが、3,000所帯ぐらいのエリアを持っていて、靴の底を減らしながら全地域を押さえているわけです。赤ちゃんからご老人まで含めて、あそこの家には3人男の子がいて、2番目の子が学校へ行けてない、苦しんでいるとか、あるいは、長男坊が引きこもっていて、今、お父さんとの対立が大変ひどくなっている、心配だなとか。すべて克明につかんでおられる。それで、間接的に保健師さんから聞けば現状が見えるなというのがわかりました。

それで、県の保健師さんの会と一緒に協働してアンケート調査して、どれぐらいのパーセンテージの人がいるかというようなことや、何に苦しんでおられて、どういう支援が必要かという調査を、長野県でやりました。そういう意味では、非常に地域に根を張った動きがあります。その割には、長野県では乳幼児教育が大変です。長野県で起きてきた困難が、すぐに全国に広がるという感じがですね。やはり、長野県の保育士さんは実情をつかんでいます。褒めているのか、悪口言われているのか、わかりにくいですね。両方あります。実態把握がきちんとできている。だから、「こんなこと起きているよ、尾木さん」と、話していただきます。



ここで話を戻します。これからトイレの話の具体的な部分に入ります。そんな状況で、T大でもいるし、W大でもいるし、法政でもいるしということがわかってきました。さらに、高校でも7、8年前からその現象が起きてきた。それに対する対応は、まったく、間違っていたと思います。なぜトイレで食べなければいけないのか、というところへ入っていかないで、水をまいて追い散らそうとしているわけです。これは教育じゃないです。

今、都立学校と協力して調査しています。いくつかはもう終わりました。そうしているうちに、

今度はこの2年ぐらい前から中学校でもこの現象が起き始めたのです。中学校は給食ですね。僕の頭の中では除外していました。もちろん、給食ではなくお弁当持ちの学校もありますが、基本は給食のところが多いわけです、関東以北では。関西のほうは、やってないところがほとんどです、知っていますか。

長野県は、この松本市はどうですか、給食ですか。普通に給食をやっていますね。関西では、やってないのが普通です。民主党さんになってからの給食費の無料化については、僕は賛成だった。でも関西では、今後、給食施設つくると7,000万円ぐらいかかります。給食を始めるためには、莫大な経費がかかるというので、色々なことを考えました。関西へ行って、「全国どこでも普通にやっているよ」と言ったら、大阪の人は皆びっくりする。大阪は、苦しいのに耐えるのに慣れてしまって、なんかシラッとしましたね。

大阪では、新入教員の採用が3,000人必要となっても、非正規採用です。正規の先生ではなくて、最長1年しかもたない非正規採用といいます。地方公務員法でいうと、緊急事態で半年間の雇用期間しかないのです。それを一回途中で更新して、1年最長の契約結んで食いつないでいる人の枠に、例えば長野県で2,000人いるとすると、小学校では、そのうちの60数パーセントが非正規です、大阪では。2005年では、80%超えています。そして、1年でパッと放り出す。教育のレベルが上がるわけがないですね。

この間も、インターネットでのカンニング事件がありましたが、インターネットでカンニングしたことで、京都大学が被害届を出して、生徒さんを警察に逮捕させるということは、とんでもないことです。教育機関としてはあり得ないことです。もちろん、カンニングはいけないというのは、言うまでもありません。高校生の6割、7割がインターネットで流して、あれぐらいのことは出来ます。ブラインド・タッチで、見ないでパッパッパってキーを押せます。皆さんのお子さんもそうでしょう。「あっ、間違えた、おっとっと」とか「あっ、消えちゃった」とか言っているのは、皆さんくらいです。息子に「あんた、やってよ」とか言ってね。

今、人類初めての経験をしています。これまで普通、若者よりも年長者のほうが必要な知識やスキルを積んできていると決まっていたわけです。ですから、子どもを叱る時も、「あなたも20歳になればわかるんだから」とか「お父さんぐらいの年になったらわかるんだから」という言い方で、通用したわけです。そういえば、親父は何でも自分より知っているし、できるなと子供は思いました。体力は落ちているかも知れないけれど、色々なこと知っているし大人は偉いなあ、というのがありました。今、大人は何にも知らないですね。京都大学の総長さんは、かわいそうに。高校生が見たら、皆がばかにしていますよ。「こんなことで憤っているほうがおかしい」と。消しゴムでカンニングするのとほとんど同じ感覚ですから。誰でも出来るのですから。そう思いませんか。発信して、答えをもらって、それで合格点を取れるような問題を出すほうも出すほうでしょう。僕だったら、来年からは持ち込み可にします。ネットもどうぞ使ってくださいって言いますね。それでも解けないような問題にしますよ。つまり、独創力や創造的な力、そういうものがなかったらば、どんなに携帯で情報集めても、電子辞書を持ち込んで調べたとしても、合格点はなかなか取れないような問題。僕の試験はそうです。

つまり、答えがあるような問題を出しているからですよ。今はそんな時代じゃないわけです。今日のタイトルで「社会に出るまでに身につけておきたい学力」と掲げられていますが、一番大事なのはそこです。答えがあるようなことを暗記する力ではなくて、あらゆる情報をうまく使って何を創造していけるのかです。今のこの震災の苦しい状況をどう打開し、原発のことをどう乗り越えていけるのか。自分は原発の科学の知識はないけれども、どういうプロジェクト・チームを作って、どういう体制を取れば前進できるのかとか、国際社会のどういう知恵をもらうべきで、どういうルートを作ればできるかということを考えないといけない。今の政府を見ていたら、ちょっと怪しいですね。後追い、後追いですよ。原子炉にただ水をやっているだけ。他のこともやっておられるの

で、そんなことを言っちゃいけないけれども。そんなものは最初に制度設計みたいなものを立てて、総力を挙げないとだめですよ。今、国家規模で全国民が一致団結してやらないといけない。そういう状況だということを把握することがやっぱり学力ですよ、これは。だから、東大に受かればいいということでは全くないわけです。日本の学力観から京都大学の今回の対応を見ると、京都大学をもってしてもあのレベルだということです。あそこで、京都大学が来年からは持ち込み可とし、総力を挙げてもそれでもできないような問題に切りかえます、というような対応をしたとすれば、ものすごくかっこよかったと思いませんか。僕はそういうことを言ってほしかった。

高校生が今、そういうスキルをアップしていて、使いようによってはものすごいパワーを持っているんだということを認識されていないわけですよ、大学人が。これは不幸ですよ。今の若者と我々年配者、熟年層とが、合体してあたっていけばものすごく力を出せます。底力を持っていると思います。不正はいかんの当たり前ですけれども、それだけで切って捨てていく、逮捕までさせるのはどうでしょう。同志社大学は逮捕させないと言いました。更正を信じていますと。かっこいいと思いませんか。



それで、この「便所飯」の調査をした結果、どういうことがわかったか。ちょっと項目だけ言います。今の学生さんは結構大学生活に満足している子が多く、「大学生活にほぼ満足しているよ」という子が80%くらいいました。それで、例えば「昼食は友達と一緒にないとみじめだ」と答えた子、これが38.9%います。わかりますか。友達と一緒にないとみじめだと思う子が4割弱なわけです。皆さんの高校時代とか専門学校とか短大あるいは大学時代、振り返ってみてください。僕は学生の頃、1人で食事することはすごくうれしかったですよ、楽しかった。それまでがずっと団体生活ばかりでしたから。1人の自由程、自由なことではないですね。150円のカレーライスを食べっていて、「おう、尾木もカレーかよ」と言ってだれか友達があれば、それは一緒に食べますけれども、一人というのは自由です。そのかわり責任重大ですけど。一人で食べることを「みじめだと思っている」子が4割弱、「大学のトイレで昼食をとっている」子は2%くらいいました。それから、「自分は友達が少ないと感じている」という子もやっぱり4割ぐらい。それからですね、「独りぼっちだと思われるのは嫌だ」と答えた子が5割いるのです。5割。僕らの年代は独りぼっちだと思われる、思われたい、そんなことで他人の目を気にしなかったですよ。どう思われているかが、とにかく、自分は自分とっていましたから。利己主義とか自己中心的ということではなくて。ところが、今の若者は、他人がどう見ているかというのをものすごく気にしています。

ここで問題なのは、「他人が」と言った時に、日本国内の他人のことで、せいぜいそこら辺にいる人を指すと思うこと。ヨーロッパの、フィンランドの、スイスの、あるいはオランダの人はどう見ているかじゃないわけです。ここ辿り着いた時に、わが国の近代化というか、ステップアップはグリーンと飛躍的に前進すると思っています。やはり島国なのです。この中で、みんながよかれと思ってやっている。文科省にしても、教育委員会にしても、学校の先生方1人1人も、親もそう。親もよかれと思って「何やっているの、遅い、早く早く」と言う。早くと言われて、早くやるのだったら、みんな早くなっているのに。そうすると子どもも「うるせえなあ、くそばあ」と言う。うるさいのです、わかっていると言われると。

それから、例えば、「授業中におしゃべりしているのを注意しづらい」と答えた子が8割ぐらいいます。講義が聞こえなかったら困るので、「うるさい、ちょっと静かにしてください」と言えばいいのですが。また、注意しない教員のほうも教員ですが。それから、今、各大学でコース担任制やクラス制がいいと言って、変更してきている大学がすごく多いです。松本大学もそうですか、クラス担任制とか、教室があって担任がいますか。そうですか。そういうところが、すごく増えて



きて、昔で言う高校的な感じになって来ています。このような形でも動けますね、逆に言えば、小規模校ですから。そうすると、気をつけなきゃいけないのが、「いじめ」です。枠が決まっていますから、その中でいじめが発生するのです、必然的に。必ず生まれます。だから、そこをどう解放していったって、突破するのかというのは課題ですね。僕も大阪のある女子大学へ呼ばれて行って、学長先生と講演の直前にごはん食べている時に、「先生、いじめの講義を頼みますよ」と言うので、「いいですよ。学生さんが教員になった時に色々と役に立ちますから。」と答えたら、その理由が違うのです。今、「退学した子が2人います。」「休学中の子が2人います。」などによく言いますね。「えっ、現役の学生にいじめはよくないよということを話すために、僕は今日来たのですか。」と聞いたら、「そうです。」とか言うわけです、もう、びっくりしました。学生さんにそんなこと直接言うのは失礼なので、君たちが現場に行った時に、こういうことがあったら子どもたちは、こんなに辛い思いしているよということを間接的に言いました。それで伝えたつもりです。みんな頷いて聞いてくれました。その後、いじめはなくなったかなあ、あの学校。

つまり、いじめというのは、公衆の前、新幹線や中央線の満員の中では起きないのです。閉鎖した空間の中で起きます。だから、枠を取っ払えばいじめは起きないのです。これは基本問題。でも、それでは教育効果が上がらないから、いろいろ考えるわけです。リスクを背負いながらの教育の効果を考えるわけで、そうしたらその時に、リスク回避の具体的なスキルや展望を持ってないと、その中で苦しい思いをする子が必ず出てきます。これはもう必ずと言っていいです。



1人では学生食堂に入りにくいと言った子が49.8%で約5割でした。ゼミを友達と一緒に選びたいという子、これが18.5%、約2割弱です。首都圏の大学のゼミは今、次々と崩壊し始めています。つまり、一緒になって束になってゼミの申込みをするわけです。例えば、僕の講義やゼミもです。

僕は臨床教育学が専門です。希望している学生に面接をしてみると、「私は心理学をやりたいです。」と言う。それに対して、「僕は心理学じゃないよ、心理学だったらあの先生だよ」と言うわけです。「いや、私は心理学やりたいから尾木先生です。」とまた言う。よく考えてみると、それはお友達が僕の科目を取りたいわけで、「そのお友達が受ければ、私も」だけなのです。そういう子が一緒になっちゃうと、2人が束になってパワーアップしますから、小中学校の学級崩壊と同じ現象が大学で出てきます。いくつもの大学で出てきています。例えば、夏にゼミ合宿やったりしますね。新宿のバス・ステーションに9時半集合といって威勢よく顧問の先生が行ってみると、来たのは、何人ぐらいきたと思いますか。顧問の先生1人。学生は誰も来ない。こういう感じです。

大変な事態が進んできています。今、「便所飯」に現われているように、「友達の日をやたら気にする」、「友達がどう思っているかでしか動けない」という学生になってきたということ。これは全国どこの大学でもそうだと思います。このままでは、ものすごくまずい。なぜかと言うと、実は今日の新聞にも載っていますが、大学の就職率が77.数%、過去最低と出ています。これ、気をつけてください。77.数%、結構いいじゃないと思うでしょう。文科省が発表した去年の3月下旬の段階では、就職率は60.8%ですから。数字が2つあるように見えますね。片や60%、片や80%、何のことかと。就職希望者のうちの就職が決まった人の率が77%、全学生のうちで就職した人が何%かというとも6割なのです。志望率の調査もみな同じですけども、データの見方っていうのは難しい。本当はもっと就職したい子はいるわけです。いるのだけれども、厳しいと言うので控えて家事手伝いとなったり、あるいは就職活動をやっているうちにもう疲れちゃって「もう、いいわ」と言って諦めた子、色々いるわけです。あるいは、心傷ついて、もう動けなくなって引きこもってしまう子、色々な子がいる。だから、全体を見ないと正確ではない。見方を変えれば、全卒業生の60.8%しか社会に出て行かないということは、国力から言うとものすごく低いのですよ。あの若者のパワーを

6割しか使えていないということは。

過日、未曾有の震災がありましたね。特に関東ブロック以北では、大企業含めて企業が致命的な打撃を受けています。松本市は計画停電がありますか。ないでしょう。東京はズタズタです。デパートも全部閉まっています。こんな光景を見たのは初めてです。乾電池を買いに行きましたが、単一が1本も売ってない。誰か買い占めた人がいる。どこにもなくて、家中見つけたら、赤い災害用のライトがありました。中を見たら乾電池が4つも入っていた。「強力だ、ライトだ」と言って、パチッとスイッチ入れた。点かない。昔からのものだから全く点かなくて、暖めてもだめ。どうしたかという、ろうそくを出してきて、今、各部屋あちこちに置いてあります。火事が起きたりすると危ないです。でも、買い占めなんかには走らないで生きていくというのも、何かすごく心が爽やかですね、皆さん。本当に爽やか。冷蔵庫を開けるでしょ、ないの、ほとんど。ものを売ってないし、この間もうちの女房が近くの生協に行って、りんご2つ買おうとしたのですが、「1個にしてください」。トマトも2個買おうとしたら「1個にしてください」。これはとても正しい売り方だと思いますよ。みんなで耐えていきましょうというか、みんなに分け与えていこうというのは。強い者勝ち、早く取った者勝ち、これおかしい。この中におられたら、ごめんなさい。帰りに電池2つほどほしいのですけど。

長野県に来たら、ガソリン・スタンドが営業している。東京は大変です。1キロぐらい長蛇の列。1時間は並ばないとガソリンを入れてもらえないし、10リットル、20リットルと上限が決まっています。しかも値段がガンガン上がっています。松本へ来たら普通に車が1台も入ってないお店がいくつもある。もう、明日ここに入れに来ようかな、なんて。ここまでくるガソリンがもうないので。うちの近辺でも、もう全部完売、売り切れで営業していません。あっ、話が逸れた。元へ戻します。

つまりね、何が言いたいのかというと、今、学生支援のところで、どういう力をつけなければいけないかということ、**「コミュニケーション・スキル」**ということがわかりました。それを大学もつけようとして、例えばクラス担任制を設けたり、あるいは、そのクラスから就職活動に入っていくわけなんです。そして、九州のある国立大学では、去年の4月から一斉に全学生の家庭訪問を始める。あるいは、ある大学は、朝寝坊してしまう子に対して、モーニング・コールを始める。それから、親御さんのための就職セミナーを始めたり、親御さんに履修届の作り方を教えたり、保護者会をやったり、親と二者面談をやったり、高校以上ですよ。これは親御さんの要望でもあるので、大学は受けていますが、僕ら教育学者の立場から言えば、ちょっと慎重にやらなきゃいけないと思うのです。善意でパッパッパッとやっていくことは、極めて危険だと思います。また、マスコミが、大学ランキングというので、「父母会を必死にやっている大学がいい」などと、1位から500位とか出すのですよ。そうすると、下位のほうにいくと、やっぱり手を抜いているように見られるので、思わず色々なことをやり始めることもあります。「うちの大学に来れば結婚できます。」というような大学まであります。皆さん、笑われますけど、本当ですよ。それで、学生要綱の表紙はもう若いカップルが、ニコッと微笑んでいる。バツとあけると、4組ぐらいがあって、私たちはどのサークルで出会いましたと、みんな書いてある。婚活大学みたいですね。でもそれは、大学としては誠意をもって一所懸命、生涯のカップルが見つかることをアピールされているわけですから、笑っちゃいけないかも知れません。

大学の動きを見ていると、大きな特徴があります。学生の教育のことで動いているのに、何か微妙に保育園になっていくような感じが、空転化しているように思います。ある四国の国立大学では、コンビニ強盗で5万円を恐喝して盗った学生がいるんですよ。大学の緊急会議で何が打ち出されたかといったら、生活費に困まっている学生には、大学が5万円融資しますという制度を設けた。そして、半年経っても誰も活用してくれないと嘆いていることに僕がコメントをして、おかしいと言いました。教育については、大学人は素人の人が多いのです。専門のことはプロです、もの

すごい専門家です。小学校、中学校、幼稚園、高校の先生は教員の免許が必要です。教育とはなんぞやと問い、子どもの発達については、発達心理学というものがあり、「こういう時には、あえてこういう取り組みをしたほうが成長する。」だとか、「このことはちょっと手を出すのを待て。」だとか、様々な理論もあるわけです。それを免許の課程で勉強し、教育実習をやるわけです。大学の先生はそういうような免許を持っている人はほとんどいないのです、教職課程の担当者以外には。ましてや、現場で教えていた経験がある人はいないわけです。そうすると、善意からずうっと熱意で入っていくと、いつの間にか保育園になってしまいます。わかります？そういう大学が今、圧倒的に多くなりました。



その中で今、何が起きているかということが重要です。ひょっとしたら皆さんが昔の感覚で一流大学と言われるところ、そういう大学では、平均就職率60.8%の時代でも、就職率はやはり高いと思われるかも知れませんが、ところが、今、完全におかしくなっています。今年の3月の大変な震災の中で、法政大学は卒業式もなしになりました。24日の予定でしたが。東京6大学全部が中止になりました。全国から集まってくるから、命落としている学生がいるかもわからない状態です。保護者や親戚も確認できない状況でしょう。卒業おめでとうなんてことは出せないわけです。だから全部自粛で、記念パーティーも全部なしになりました。

僕のゼミは、すぐ安否確認をしたら全員元気でした。「みんな、元気か。」と僕にメールを入れなさいとやった。17人いますが、「元気です。先生お気遣いありがとうございます。」と書いてくるのもいれば、「生きているよ。」というだけのもの、もう千差万別、やめてくれと思いました。「生きているよ。」はないですね。苦しんでいる人のこと考えたら、失礼です。全員無事なのですが、4年生をどう送り出して励ましていくかということも大事です。大変な震災の中で、採用取り消しに入っていく企業がいっぱいあります。取り消してもいいという通知も出しました。恐怖ですよ、これは、今の4年生にとっては。「さあ、就職が決まってあそこで働くんだ。」と思っていたら、今回の災害でものすごいダメージを受けて新卒の採用を取り消しますというのが、これから出てくるんじゃないと思って、僕は覚悟決めて、さあうちのゼミはどうしようかなと考え、卒業式も全部なくなったので、ここは結束してゼミだけで、「宴会はやれないけれど、どこかでお茶を飲みながら何かをやりませんか、何か提案を出してくれ。」と、昨日メールで流したのですが、何も返ってこない。これが2年ぐらい前だったら、もうザーッといっぱい来ましたよ。本当にこの1、2年の変化ですね。僕のほうから、「何月何日にルノアールという喫茶店に集まって、1人350円でちょっとね、そしてなんか記念品でも持ち寄しましょう。」と、こうやらないとだめなのです。

僕の近辺だけでもわかりませんが、松本大学では、地域の方と一緒にやっておられますから、何か生きる力っていうかな、たくましさは、こちらの学生さんのほうがあるなと思いましたね。そして、目に見えることに取り組んでおられるから、すごいなと思いました。

これから急激に4年生は大変になります。わかりますか。4月に入ってから、自宅待機という形になることが考えられます。首を切るということは、社会的に反するので、おやりにならない企業はいっぱいあると思います。でも自宅待機が半年続いたら大変ですよ、生活もできないし。でも、自宅待機が続出すると思います。皆さん、見当つきますね。ものすごく厳しい中で今何が起きているかということ、去年の3月に就職ができないまま卒業した学生が3万9,000人いる。3万9,000人ですよ。就職が決まらないけれども、親の理解とか結構お金があるからという学生は留年しました。そのまま卒業すると、就職活動が厳しいので、あえて留年するわけですが、これは就職留年と言います。就職留年した学生がどれだけいるかというと、7万9,000人いる。トータル11万人ですよ。去年卒業したのは約56万人です。そのうちの文科省がつかめているだけで11万人ですよ。実際は14、

5万人もいる。大変な状況です。学生は大変努力して苦労しました。けれども、今もまだ苦しんでいる学生がいくらもいます。留年して就職活動やってまだ決まらない。2年経っても決まらない学生の気持ち、皆さんわかりますか。100社や200社、全部の企業が採用してくれないのです。自分が否定されているようで、どんなに苦しいと思いますか。若者にとって、学生にとって希望がないような状況になっているのです。

就職が決まらないので、日本で一番多くの学生が留年してしまった大学では、27、8%の学生が残りました、4年生のうち5年生に残った学生が27、8%です。大学名は申し上げます。学生は心を痛めて一所懸命努力されていますから。関西のほうのものすごく大手の大学です。関西のいわゆるブランド大学というか、一流大学です。



さて、こういう力のことを学力と言います。つまり、覚えている学力、暗記型の学力ではないものが重要です。暗記型の学力は、例えば、漢字がどうできているかが分かることです。これは認知主義と言いますが、覚えている学力は専門用語で言うところの「東アジア型学力」と言います。発展途上の60年代、70年代に必要な学力です。今はパソコンや情報化社会で、パッパッと操作したらすぐにわかる、漢字の読み方わからなくても超簡単です。だから、あれを覚えるよりも、機器を操作して、情報を発信し受信する力のほうがものすごく重要なのです。でも日本人は努力することが好きです。だから、電卓を使わないで、計算しなくてはと思う。それを自己満足と言います。

関東ブロックではどこの大学かって言うと、これがまた、日本人なら憧れのナンバーワンかなと思われるような有名な地名の大学です。その大学の大学院なんか、文系、就職率49.数%です。大学院、T大の大学院を出ているのに、半分しか就職が決まらない。これは国としておかしいですよ。最高の頭脳の最高にいろんなものを持っているわけですよ。それを半分しか生かせないのはおかしいじゃないですか。それで、学部も大変な苦難に今陥っています。法政のほうの方が遙かにいいです。それは戦術的にうまいっているだけなのです。別にT大生、O大生に勝っているとかそういう意味ではなくて、向こうは今まで寝転がっていても就職はあったから、スキルがないのです。心構えもないから、4月の大手の一流企業の試験日、終わったらもうないのですから。法政では、色々な手を次々と打って、学生も苦労するし、伝統的に先輩からのアドバイスもあるし、みんなで必死になっている。そうでなかった大学ほど厳しい状況にあります。

ところが、もう1つ重要なことは、企業のほうは学生を採用していないのか、ということです。採用しています。していないのなら行き所がないから問題ですね。採用しているのです。例えば、電気の大手、日本で最も有名な製造メーカーがあります。よくわからない方は、松下電器って言えばわかりますか。ここでは八百数十人をとってくれています。ところが、T大やらO大からなかなか受からない。九州で一番苦戦したのはどこか、実を言うとK大学です。わかりますか。これはおかしいでしょう。何かがずれてきています。何かが狂ってきている。誰が採用されたと思いますか。ここからが大事。どんな人が受かったと思うか、皆さんに質問するから30秒相談してください。

どのような感じの人が受かるかっていうグローバルな視点で考えてください、グローバル。今日のテーマはグローバル。グローバルってわかりますか。国際的、世界的という意味です。ちょっと聞いてみましょう。隣の人がこう言った、そういうことでもいいです。

学生：「ちょっと前のニュースで見たのですが、韓国からの留学生をとる会社がすごく多いと言っていました。」

尾木：「正解。テレビでやっていたの。僕があんまり言うからだ。ひょっとしたら、それ、TBSかしら。」



学生：「わからないけど、韓国から来て日本で就職される方が多いって。」

尾木：「そう。実は、イオンさんも1年構想を打ち出したのですが、みんな留学生です。東南アジアの。パナソニックさんも去年の4月の採用試験で八百何十人だったのですが、今言われた韓国とか中国だとかインドとか、あるいはベトナム、タイ、マレーシアといったアジアの留学生を採用しています。問題はその割合なのです。何割ぐらいだったか、何%ぐらいか、どう思われますか。」

学生：「半分くらいですか。」

尾木：「半分。かなり勇気出して半分って言ったでしょう。だって顔に書いてあった。思い切って、半分という感じですね。実は80%です。」

うちのゼミの学生も受けに行きました。そうしたら、採用試験の監督の人か説明の人かに「留学生でいくから、あんた受けても受からないよ。」と、言われたのです。意味がよくわからなくて、やっぱり受けに行った。そして、やっぱりだめだった。だから、「そういうのはすぐ僕に言わなきゃだめでしょう。」と話しましたが、そういう状況です。パナソニックさんだけが80%ならいいのですが、イオンさん、それから楽天さんやユニクロさんなど、世界展開している製造メーカーも含めて3カ年計画を打ち出した。そして、今年の採用では、まず35%ぐらいを留学生に切りかえる。来年は55%ぐらい、2013年には75%ぐらいまで。大体7、8割のラインまで全部留学生をとっていかようとしています。今、文科省のデータでは、留学生は13万人です。文科省は2020年までの30万人構想を打ち出しています。そうすると、日本の優秀なグローバルな企業に対して就職が決まっていくのは、国内の学生はほとんどいなくなります。なぜなら、若者が「便所飯」をしていたり、学力が重要だと言っているのに、高校の校長先生方のアンケートを見たら「コミュニケーション・スキルをつけないとだめだ。」が80何%という状況にあるからです。わかるでしょう。

変な言い方をしたら、国内の大学生を日本の企業は見捨てています。なぜかと言ったら、自分の企業が生き延びなければならないから。採用試験やってみたら、中国の学生や韓国・タイ・インドの学生、特にインドの学生が増えています。英語ができるだけだと思うでしょう。日本語能力で差がつくのではないかと思われるでしょう。むちゃくちゃ日本語は堪能です。そして細やかな心遣いができる。例えば中国の人は、中国語で話しているのを聞くと、日本人には、喧嘩をしているように聞こえます。あれは、発音がそう聞こえるだけであって、一緒に生活してみるとものすごく細やかですよ。日本人はかなわない。日本の学生が太刀打ちできないくらいに、心細やかで純日本的です。おそろしいほど素晴らしいですよ。日本の企業は生き延びるために、アジアの学生に頼るようになってきました。これは、僕のような教育関係者から見ると、すごく不満です。どうして日本の大学を大事にしてくれないのか、一緒に育てていこうじゃないかと。買い占めと同じですよ、発想的に言うと。ここまで言うとしりません。日本の大学はだめだと、企業が言ってくれば、一緒になって協働できるのに、これが出来ないことが寂しいですね。

ところが、もっと、びっくりしたことがあります。大学はどのようなことを始めたかということ、大学生を国際的な展開で鍛えていこうとしています。例えば、日本を代表するWがつく大学があります。慶応といつも対比される大学ですが。そこでは、やはりアジアの人に負けない学生を育てようというので、英語で授業をやり、英語でディスカッション・意見発表をし、英語のレポートを提出させ、全部を英語で始めました。定員27人ぐらいのゼミで発足して、試験やって取った、27人の中に、日本人が何人入ったと思いますか。たった1人、たった1人しか入れないのです。そこまで日本の高校の語学の力が低いのか、あるいは語学だけじゃないですよ、プレゼンでも自信がないのです。日本の学生はペーパーでやれば結構できるのですが。NHKが特集を組んだ番組を見たら、アジアの学生は目つきが違います。インドや中国の学生のあのパワーフルな、カアーッと生き延びる目つきと日本の学生のおとなしい、もう準植物化したような目つき、これは話にならないですよ。

つまり、大学がやろうとしても、そういう状況になってきました。国際社会で言うと、東京大学は24位ですよ。早稲田大学が182位、法政は500位までも入っていません。6大学全部が数のうちに入っていないのですよ。



そういう中で、どのようなことが起ってきたかという、大学も「留学生狩り」に出てきました。T大学もインドへ出かけています。W大学もインドに出かけています。ある大学は旅行会社と提携して国際展開し、国際的に「留学生集め」に走り始めました。ちなみに法政大学はどうかと言うと、全く動いていません。のんきで知らないだけです。でも、このことは、僕は泣けるほど辛いです。だめだったら、だめだって言ってください。そうしたら、小中高大連携しながら、プロジェクト作って、何とか本当に「草食ではない大学生」をどうすればいいのか、色々なことを考えます。国家プロジェクトを作ってくれればいいわけです。それなのに、T大学は何とコメントを出してきたか。「大学の研究レベルを維持するためには、留学生しかありません。」と言いました。そんなばかな。東京都の教育委員会がどう言っているかと言うと、「東大や早慶、上智への進学率があまりよくないので、土曜日の部活動は自粛するように。」と通達を出した。そうしたら、おもしろいことに、「勉強部」というのを設立した都立高校が出てきました。いったい、何をやっているのかと思いませんか。勉強部だって。こんなことをやっているから負けるのです。負けるというのは変ですが、相手にされないのですよ。東アジアの諸国に負けるわけです。

今、日本はこのような状況の中にあります。尖閣諸島で中国の船がぶつかってきているだけではなくて、人材もグローバルな国際的な競争社会に入ってきたのです。企業だけではないですよ。別にね、競争に勝とうというわけではないけれども、守りながら、協力するところは協力し合って生きていけるような国際的な人材をどう作るかっていうところへ、日本全体が入って行かないと、だめになることは明らかです。ほんとに、「尾木ママの叫び」です。

どういう力をつけるかで言うと、本当に一番基礎的なのは「洞察力」なのです。さっき僕が、大阪の何々大学ですよと言って、それじゃ関東では、どこでしょうと言った時に、すぐにパッと東大と浮かぶ。ここのプロセス。これが力量です。学力ですよ。そして、それを促していく学力の向上っていうのは一体何かということで、学力向上論というのが立ち上がります。結論だけ言いますと、一番大事なのは、「発想力」です。どんなふうに豊かに発想できるかという発想力。それから、もうひとつは「論理力」。論理的にものを考えていく論理力です。それから、「思考力」は大事でしょう。日本は思考力とかしか言ってないですが、国際社会で言う思考力は「批判的思考力」です。Critical Thinking と言いますが物事を批判的に、進歩、前へ進もうと思って考えていく批判的思考力、この3つです。これが中心、中核。そして、それに付随して「表現力」と「グローバルなコミュニケーション能力」、つまり「英語力」です。この5つをつけないければなりません。

それを促すためのメソッドというのがあります。フィンランドでは、「フィンランド・メソッド」と呼んでいますが、察知して理論的にきちんと組み立てあげていくものです。心理学的にも全部きちっと裏付けがあって。日本はただ、「ゆとり」、「脱ゆとり」などと言っているだけです。言葉遊びになってしまっているのです。理論的にどういうふうにして前進していくのか、なにも出てないです。出てないですよ。だから、英語も本当にグローバル化してやるのだったら、英語をどれだけ教えても、それはだめです。多文化共生社会で、色々な国の人と行き会っているよという日常のある中で、英語が必要になってきて、するなと言ってもするようになるわけです。わかりますか。

だから、オランダは165カ国の人が住んでいて、人口の65%が外国の方ですよ。日本もそれが絶対いいと言っているわけではないですよ。何もこの形を勧めているわけではありませんが。例えば難民の方、今30人募集しています。この間、NHK かどこかのニュースで流れました。去年の6月

にミャンマーから6家族16人を受け入れたとか、このレベルです。つまり、国が鎖国状況ですよ。その中でグローバル化しているからと、小学校だけに英語を押しつけて英語力がつくわけがないです。社会全体がどういう生き方をしていくのかということです。

今は震災の大変な状況ですが、ここでどういうふうにして、みんなが力を合わせて国を盛り上げていくのか、みんなを救済していくのかということ、ある意味で試練かも知れません。日本の底力みたいなものを新しく作っていくための。本当にここでそうしなかったら、1万数千人とも言われる亡くなられた方々に申しわけがないと思います。そこへやっぱり入っていきませんか。

あまりにも抽象的でごめんなさい。本当は、言いたいことがまだいっぱいあるのに、時間が来てしまいました。もう話を終わらなくてはなりません。幕末の坂本龍馬ではありませんけど、グローバルに、ツーッと国際的に視野を広く見てください。もう大変な事態になって、日本だけが遅れてしまいました。これを打開していく。だから、我が子に勉強しなさい、早くしなさいと言う気持ちはわかりますが、もっと目を開いていきましょう、子どもと一緒に。そうした時に、子どもは勝手に勉強するようになる。うそと思われるでしょう。うそじゃないの。子どもってそうです。若者ってそうですよ。何にもなくても、希望がありさえすれば頑張れるのが若者です。若者だけではなくて、僕たちもそう、希望があったら頑張るでしょう。苦しい時ほど、やはりアドバルーンは高く掲げていかないとだめだと思います。もう時間が来ました。ごめんなさい。

僕はブログをやっています。20文字、30文字でどんどん流していきますので、また見てください。それから本も次々と出す予定になっていますので、また読んでください。軽いママ本ですけども。どうも今日は、ありがとうございました。終わらせていただきます。